

令和3年度 特別展示

群馬で発見！『日本最古のサケ属化石』を展示します

- 本県安中市に分布する安中層群板鼻層（約1,100万年前に堆積した地層）から採集された、サケ属の大型絶滅種〔学名〕*Oncorhynchus rastrosus*（最大体長2.3メートルの巨大サケ）の化石標本を、期間限定で特別展示します。
- この標本は、サケ属化石としては日本最古であると共に、北西太平洋域で初めて報告された *Oncorhynchus rastrosus* となります。

1 展示する標本

- 右前上顎骨の前端部と、そこに植立する大きな1本の前上顎骨歯です。（右写真）
- 展示では、化石標本（実物）と共に、この化石種と系統が近いサケ属の剥製標本等を列品します。



2 展示期間

注：当館ホームページから、オンラインによる事前予約が必要です。

令和3年10月2日（土）～12月12日（日）

※新型コロナウイルス感染症の流行状況により、開館状況が変更になる場合があります。

3 展示場所

群馬県立自然史博物館 エントランス（常設展示室入口手前）

4 関連講座の開催

10月31日（日）自然史講座「博物館の化石、いろいろ調べてます」（講師：高桑祐司）

※開催時刻や申込方法などは、当館ホームページにてご確認ください。

【この標本の研究論文について】 ※当館ホームページで閲覧・ダウンロードが可能です。

群馬県立自然史博物館研究報告第24号（2021年3月発行）で、当館の高桑祐司学芸員（理学博士）が公表しました。

また、論文の概要を、当館発行の「デメテール80号」（2021年春発行）に掲載しています。